

事例 1

「不要在庫ゼロ」を切り口に トップレベルの現場づくりを目指す

カルソニックカンセイ群馬工場

カルソニックカンセイは、ラジエーターや空調ユニット、マフラー、熱交換製品、インストールメントパネルなど、多様なユニットを生産する日産系列の大手自動車部品メーカーである。2000年にカルソニックとカンセイが合併して発足。2005年に日産の連結子会社になった。設計・開発・製造の一貫生産の中で培ったモジュール化の技術を得意とし、多くのユニットで部品点数の削減、軽量化、省燃費化などを実現、日産以外の国内自動車メーカーや、海外メーカーにも製品を納入している。

「CIMMS再構築活動」としてスタート

同社が自社製品の生産方式にNPW(日産生産方式)を取り入れたのは2005年、日産をはじめ主要取引先の自動車メーカーのグローバル化が進展し、自動車部品メーカーの生産のあり方が問われ始めた頃である。

これより先、同社では2000年の新会社発足以降、

独自の生産方式(CIMMS: Calsonic Kansei Intelligent Manufacturing Management System)の確立を目指したが、「何年経っても座学の域から抜け出すことができず、現場を巻き込んだ生産革新には至らなかった」とグローバル生産本部 VP CKPS 推進グループ部長の松波亮二氏は話す。「このままでは急速なグローバル化に対応できない」と悩んでいた時、日産からNPWの直接指導が受けられることになり、NPWを基本にした生産方式へと舵を切ったのである。2005年は、日産においてもNPWの成果が顕著に現れ始めた時期でもあり、まさに時を得たタイミングだった。

「日産さんはクルマを造っていますが、よく見ればプレスラインや溶接ラインがあり、それは

群馬工場 工場長 高橋 悟氏(写真右)
グローバル生産本部 VP CKPS 推進グループ 部長 松波亮二氏



工場概要

会社名：カルソニックカンセイ(株)群馬工場
所在地：群馬県邑楽郡邑楽町新中野132
生産開始：1974年
従業員数：899人
事業内容：吸排気機器製品、空調機器製品、熱交換品の製造

